

(二〇一七年度)

4 国 語 問 題 (六〇分)

(この問題冊子は21ページ、三問である。)

受験についての注意

- 一、試験監督者の指示があるまで、問題冊子を開いてはならない。
- 二、試験開始前に、試験監督者から指示があったら、解答用紙の右上の番号が自分の受験番号と一致することを確認し、所定の欄に氏名を記入すること。次に、解答用紙の右側のミシン目にそって、きれいに折り曲げてから、受験番号と氏名が書かれた切片を切り離し、机上に置くこと。
- 三、試験監督者から試験開始の指示があったら、この問題冊子が、右に記したページ数どおりそろっていることを確かめること。
- 四、筆記具は、HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。時計に組み込まれたアラーム機能、計算機能、辞書機能やスマートウォッチなどのウェアラブル端末を使用してはならない。
- 五、解答は、解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで、そのマーク欄をぬりつぶすこと。
- 六、マークをするとき、マーク欄からはみ出したり、白い部分を残したり、文字や番号、○や×をつけたりしてはならない。また、マーク箇所以外の部分には何も書いてはならない。
- 七、訂正する場合は、消しゴムでいねいに消すこと。消しきずはきれいに取り除くこと。
- 八、解答用紙を折り曲げたり、破ったりしてはならない。
- 九、試験監督者の許可なく試験時間中に退場してはならない。
- 十、解答用紙を持ち帰ってはならない。
- 十一、問題冊子は必ず持ち帰ること。

—
次のA、Bを読んで、後の問に答えよ。

A

西欧ではギリシア以来の伝統と思われるのだが、数の本性を問題にする傾向が強い。ここで数に関する諸説を紹介するつもりはないが、数学の真理性について語る関係上、経験論の代表としてJ・S・ミル(一八〇六—七三)に登場してもらおう。

ミルは数学も物理学や生物学と同じような帰納的科学の一種であると考えた。つまり、数学の厳密性、真理性は絶対的なものではなく、その明証性は経験に裏づけられているというのである。たとえば、 $(x+1)^2$ を展開するとき、子供の頃算術をしたようには具体的事物を頭に描いて計算することはしないけれども、それは習慣によつて計算過程が機械的になり、意識から消えたせいにすぎない。しかし、なぜこの計算が絶対的なものかと思えるかというと、それはその過程の一步一步を振り返ってみるとき、たんなる記号でなく、事物について考えたことが裏づけになっていることが知られるからであると主張する。

敷衍²して言うなら、 $1+1=2$ の真理性は、一つのりんごともう一つのりんごを合わせれば二つのりんごとなるというよう
な経験の積み重ねによつて裏づけられているというのであるから、ミルの主張は多くの人を首肯させるにちがいない。

人類の精神生活の中に初等的数理がいかにして登場したかは、経験の積み重ねで説明がつくにしても、このようなレベルの経験説では数学自身の確からしさを論じることができない。現代の数学には虚数も無理数も、非ユークリッド幾何学も、さらには非可換代数学も登場する。これらの数学は経験の裏打ちがないから正しくないのだろうか。ミルの説は小学校算術ならともかく、現代数学の真理性を論じるにはあまりにも幼稚と言わねばならない。

偉い数学者の中には、数学は経験科学であると書いている人がいる、どちらが正しいのだ、と言う読者がいるかもしれない。たとえば、小平邦彦さん。小平さんはある随筆で「数学は実験科学である」と力説されている。数学でも予測したり、直観で考えたりするから、数学は物理学などと同じ実験科学だと主張されているのである。

物理学の命題は証明されることはなく、したがって絶対的な真ではありえない。一方、直観で得られたり、計算機を使つて

予想されたりした数学の命題は証明の対象であり、証明されないかぎり真ではない。

ポアンカレが言うように、直観とは全貌を見渡す力であり、錯綜した経路の中から頂上へ達する一本の道を発見する能力であるのなら、数学において直観が最大級の重要性を持つことを疑う人はいないだろう。また、数学の発見が帰納的に進む、つまりいくつもの思考実験、実例計算の中から発見が生まれてくることは高校生でも知っていることである。

しかし、「演繹的に証明すること」が、物理学などの帰納的科学と数学という純然たる演繹的科学を峻別するという事実を見落としてはならない。もちろん小平さんは、数学は「経験科学」であるとか、「帰納的科学」であると主張しておられるのではない。現代数学で正しいと認められている命題が、いつかは否定されることもありうるという意味で実験科学であると考えている数学者は、現在おそらくは一人も存在しないであろう。

それはそうだが、小平さんの主張が少し極端で、誤解されやすいというのも事実である。

小平さんが、数学は人間の存在とは無関係な実在であり、数学の定理は発見されるのではなく、発見されるのだというピュタゴラス派的信念を持つておられることはいろいろな書き物から明白である。

物理現象の背後には数学的実在が厳然としてあるのだから、数学の定理は発見である。自分は鉦夫が鉦脈を掘るようにして定理にぶつかり、自然に定理を掘りあててきたにすぎないと小平さんはおっしゃっている。似たような感慨を漏らしている数学者は少なくないから、別に謙譲を装っての言葉ではなく、正直な感想と受け取ってよい。

人の信念に対しては反対のしようもないが、自分も同じように考えているかと問われれば、私はまったくちがったふう⁴に考えていると言わねばならない。

もしも数理が自然現象の奥に存在する実在で、われわれはそれを発掘しているだけなのなら、カントル(ドイツの数学者。一八四五—一九一八)が集合論を始めたとき、なぜあんなに苦しんだのだろうか。直線上の点の全体と平面上の点の全体が一対一に対応するという事実を発見したとき、なぜ「目で見ているものが信じられない」とデデキントに告白したのだろうか。

なぜ虚数というのは、長い間「存在と非存在の間にある」ものとして受け入れられなかったのだろうか。なぜ負の数は、千年以

上もの間「虚構の数」とされ、方程式の解から除外されてきたのだろう。

エウクレイデスの『原論』以降、非ユークリッド幾何学が生まれるのに二千年も要したのはなぜなのか。

私には、数学のある理論が一般に受け入れられるようになり、大学院レベルないしはそれ以上であるうとも、そういう段階で理論の持つ基本的思想が普及するようになると、すなわちある意味で慣れが生じてくると、直観が働くようになると思う。つまり、集合論、解析学、代数学、なんでもよいが、ある数学の分野が確立されて、はじめて小平さんの言う「⁵数覚」なるものが生まれてくるのではないかと思うのである。そういう考え方が、いかにも自然に思われてくるのである。このように数学のある分野の基礎が定着してくると、その分野特有の数覚が働くようになり、定理が発見されるようになるのである。

要約して言えば、⁶集合のような基本概念は人類の発明であるが、定理は発見であると思うのである。

数学は自然現象なり、思惟的考察対象なりのパターンをその時々都合によって認識し、名称を与えたり、法則化していった成果であるのだが、人間の観察・思考・認識は言葉による束縛など、いかんともしがたい偏向がかかっているはずである。かんたんに言えば、⁷数学は「X」言語なのである。だから、数学の基本概念は発明なのだというのが私の主張である。

B

近代以降における数学の驚異的な成功のせいだろうが、その普遍性に自信を持つ数学者は少なくない。宇宙のどこの知的生物でも、言葉、表現こそちがいがあれ、同一の数学を持つであろうと考えるのである。

ほとんど永久にその真偽がわからないので、こういうことは言うてみるだけであるが、私は数学というのは人類だけのものであるような気がしている。真理と云ったって、われわれがそう見ようとしている真理しか見ることができないのである。いくらかは苦勞をして元來は備わっていないかかった見方を開拓することができなければならない。人類にはもともと許されている、あるいは脳の構造上決まってしまうている範囲を超えてものを見ることはできないはずである。われわれのパターン認識には全然引つかからないパターンというものがあるにちがいないと思う。

それどころか、法則というものは因果関係の認識能力を寄り所としているが、人類以外の生物は因果関係を認識しているのだろうか。もっと平たく言えば、ヤシの実が自然落下してサル8の頭に当たったとしたら、そのサルは上を見上げるだろうか？ なつかしい主人の落し物があつたとして、犬はその落し主を求めてあたりを捜し回るだろうか。このような能力が十全に備わつて初めて、数学の理論、ないしは一般的命題というものが存在し、その証明が存在するのである。

われわれの数学はわれわれの言語をもとにして、さらに言えば、上述の因果関係の認識能力と帰納的一般化の能力をもとにして発達したものであるから、思考方法や伝達方法が異なる生物はまったくちがうパターンでものを見、考えるにちがいない。地上の生物ですら、相当な多様性があるものを、他の天体の生物の数学がいつたいどんなものか、われわれには想像もつかないのであつて、同じであるかないか、言うのもばかばかしいような気がする。

ラッセルはどこかで、人類史は宇宙史の最後のページの脚注にしかすぎないだろうと書いているが、私は宇宙史の中の唯一有意義な部分は、たとえ一瞬であつたかもしれないが、人類によって占められているのではないかと思う。なぜなら、「有意義」というのはわれわれにとつて有意義ということにはかならないからである。

したがつて、宇宙のどこへ行つても知的生物は表現こそちがえ、みな同じ数学を持つはずだとか、自然の背景には厳然とした数理の世界が支配しているのだとかいつた説は、私には人間の都合に合わせて宇宙が造られているという、古代からある、そして今も根強い人間中心主義の変形のように思える。⁹ もっとも、こうした錯覚が学問追究を支える駆動力となつては肯定できない。そこが人間という動物の不思議なところ、おもしろいところである。

(足立恒雄「 $\sqrt{2}$ の不思議」より)

〔注〕

J・S・ミル：イギリスの哲学者。非ユークリッド幾何学、非可換代数学：現代数学の分野。小平邦彦：日本の数学者（一九一五—一九九七）。ポアンカレ：フランスの数学者（一八五四—一九二二）。ピュタゴラス派：古代ギリシアの哲学者ピュタゴラスが創設したとされる教団。デデキント：ドイツの数学者（一八三二—一九一六）。エウクレイデス：古代ギリシアの数学者（英語名ユークリッド）。ラッセル：イギリスの哲学者、論理学者（一八七二—一九七〇）。

問一 傍線部1はどのような意味か。もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a 物理学や生物学における帰納的研究を経験に基づいて進めていくと、習慣によって計算過程が機械的になり、数学が持つ厳密性、真理性が得られるようになる。

b 数学の真理性は絶対的なものではなく、物理学や生物学と同様に経験に基づく帰納的発見を積み重ねていくことにより得られる明証性は錯覚にすぎない。

c 物理学や生物学が外界に関する経験に基づいて帰納的に法則を立てて研究するのと同様に、数学も人間が経験に基づいて研究を進める帰納的科学である。

d 物理学や生物学が外界に関する帰納的科学であるのと同様に、数学は記号に関する計算過程を帰納的に研究することによって厳密性、真理性を獲得している。

問二 傍線部2を論旨にそって言い換えれば、どのようになるか。もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a 結論を非常に一般的な形で言えば

b 簡潔に論理的結論だけを述べれば

c さらに演繹的に推論を重ねてみれば

d 簡単な例をあげてわかりやすく言えば

問三 なぜ著者は傍線部3のように主張するのか。その根底にある著者の考えとしてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a 数学が帰納的科学であることは事実だが、一方、数学は物理学などと違って演繹的に証明する面もあるので純粹の経験科学とも言えないから。

b 数学において直観や帰納が持つ重要性が強調されすぎることによって、物理学などの帰納的科学と数学との根本的相違がとすれば見落とされかねないから。

c 数学において実例計算が重要であることは事実だが、同じように帰納的科学である物理学などとの相違を見落とすと、数学の命題が証明されないかぎり真ではないことが説明できないから。

d 数学と同じ帰納的科学である物理学の命題は証明されることはなく、したがって絶対的真理ではありえないのに対し、数学の命題の真理性は帰納によらずとも絶対的であるから。

問四 傍線部4について、ここで著者は「私はまったくちがったふうに考えている」というが、何に不同意なのか。もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a 数学の定理を発見するには、鉦夫が鉦脈を掘るようにしないといけないという考え方。

b 数学は人間の存在とは無関係な実在であるという考え方。

c 数学においては直観が最大級の重要性を持つという考え方。

d 現代数学で正しいと認められている命題は否定されないという考え方。

問五 傍線部5の「数覚」とはどのような概念か。本文の内容から考えてもつとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 数学的対象を捉える直観的・感覺的能力。
- b 数学を考えるための普遍的・理性的能力。
- c 推論を進めて数学的問題を解く一般的能力。
- d 数学的証明を行うための自覚的・論理的能力。

問六 傍線部6のように著者が述べるのはなぜか。その理由としてもつとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 人間が集合のような数学の基本概念を考え出すときには、カントルのように苦しんだ上で発明しなければならないが、一度ある意味で慣れが生じると直観が働くようになり、それほど苦しまずとも物理現象の背後にある数学的実在を発見できるようになるから。
- b 人間が集合のような数学の基本概念を考え出すときには、数学は人間の存在とは無関係な物理現象の背後にある実体だが、そのような基本概念に一度慣れてしまえば鉦夫が鉦脈を掘るようにして定理にぶつかり掘り当てていくことができるようになるから。
- c 人間が集合のような数学の基本概念を考え出すときには、その数理がまだ自然現象の奥に厳然として存在しておらず発明しなければならないが、慣れが生じて直観が働くようになれば物理現象の背後にある数学的実在を掘り出すだけで定理を発見できるから。
- d 人間が集合のような数学の基本概念を考え出すときには、そのための思考・認識に人類としての偏向がかかっているに違いないが、一度そのような基本概念に慣れてしまえば直観が働いて、考察対象のパターンを発見することができるようになるから。

問七 文中の空欄⁷「X」に入る語としてもっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a コンピュータ
- b 欠陥
- c 人工
- d 経験

問八 傍線部⁸の「因果関係の認識能力」とはどのような能力か。もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a ある現象が別の現象とはほぼ同時に起こるといふ関係を認識する能力。
- b ある現象が原因となり他の現象を引き起こすといふ関係を認識する能力。
- c ある現象の背後に自分にとって既知の現象があるといふことを認識する能力。
- d ある現象の背後に一般的命題の存在を認識し、それを証明する能力。

問九 傍線部9の「もつとも、こうした錯覚が学問追究を支える駆動力となっていることは否定できない」とはどのような状況を指しているのか。もつとも適切なものを次の中から一つ選べ。

a 自然現象の奥に厳然とした数学的世界が実在しているという錯覚が数学の普遍性・絶対性に対する自信を持たせ、そのことが学問追究の駆動力となっている。

b 宇宙のどこへ行っても知的生物はみな同様に有意義な数学を持つはずだという錯覚が、定理を発見したいとする学問追究の駆動力となっている。

c 直観や実例計算の中から帰納的に定理が生まれてくるという錯覚が、結果的に数学的発見に関わる学問追究を支える駆動力となっている。

d 人間中心主義による錯覚が因果関係の認識能力と帰納的一般化の能力を発達させて、そのことが学問追究を支える駆動力となっている。

問十 本文で著者が主張している数学観と相容れない考え方を次の中から二つ選べ。

a 物理現象の背後に人間とは無関係に厳然と存在している数学的実在を発見するのが数学である。

b 数学の発見はいくつもの思考実験、実例計算を繰り返して帰納的に進んでいくものである。

c 数学は物理学などと同様に人間の経験を基にして構築された経験科学である。

d 宇宙のどこへ行っても知的生物はみな同じ数学を持つという説は、人間中心主義からくる錯覚である。

e 数学は自然現象その他の考察対象のパターンを人間が認識し、法則化していった成果である。

次は、一条天皇の中宮彰子に仕えた紫式部の「紫式部日記」の一節である。これを読んで、後の間に答えよ。

大きな厨子とと一よろひに、ひまもなく積みて侍るもの、ひとつにはふる歌、物語のえもいはず虫の巢ねになりたる、むつかしく、はひ散れば、あけて見る人も侍らず、片つかたに、書かみども、わざと置き重ねし人も侍らずなりにし後、手ふるる人もこ
 とになし。それらを、つれづれせめてあまりぬるとき、一つ二つひきいでて見侍るを、女房あつまりて、「おまへはかくおは
 すれば、御幸みゆきひはすくなきなり。なでふ女か真字書まなぶきは読む。むかしは経読きやうどくむをだに人は制せいしき」と、しりうごちいふを聞き侍
 るにも、「物忌ものいみける人の、行く末すまいのち長かめるよしども見えぬためしなり」と、いはまほしく侍れど、思ひくまなきやうな
 り。こと5はたさもあり。

よろづのこと、人によりてこととなり。誇りかにきらきらしく、心地よげに見ゆる人あり。よろづ、つれづれなる人の、
 まぎることなきままに、古き反古ひんこひきさがし、行なひがちに、口ひひらかし、数珠ずしうの音高きなど、いと心づきなく見ゆるわ
 ざなりと思ひ給へて、心にまかせつべきことをさへ、ただわがつかふ人の目にはばかり、心につつむ。まして人のなかにまじ
 りては、いはまほしきことも侍れど、いでやと思ほえ、心得こころえまじき人には、言ことひて益やくなかるべし。物もどきうちし、われはと
 思へる人の前にては、うるさければ、ものいふことももの憂く侍り。ことに、いとしも物のかたがた得たる人は難し。ただ、
 わが心の立てつるすちをとらへて、人をばなきになすめり。

それ、心よりほかのわが面影を恥づと見れど、えさ11らず、さし向ひまじりたることだにあり、しかじかさへもどかれじ
 と、恥づかしきにはあらねど、むつかしと思ひて、ほけしれたる人に、いとどなりはてて侍れば、「かうは推しはからざり
 き。いと艶に恥づかしく、人に見えにくげに、そばそばしきさまして、物語好み、よしめき、歌がちに、人を人とも思はず、
 ねたげに、見おとさむものとなむ、みな人々いひ思ひつつ憎みしを、見るには、あやしきまでおいらかに、こと人かとなむお
 ほゆる」とぞ、みないひ侍るに、恥づかしく、人にかう、おいらけものと見おとされにけるとは思ひ侍れど、ただこれぞわが
 心と、ならひもてなし侍る有様、宮の御前も、「いとうちとけては見えじとなむ思ひしかど、人よりけにむつまじうなりにた

るこそ」と、のたまはする折々侍り。くせぐせしく、やさしだち、恥ぢられ奉る人にも、そばめたてられて侍らまし。

〔注〕厨子…文具などの収納具。書^{かみ}ども…漢籍類。置き重ねし人…紫式部の夫であった藤原宣孝(紫式部日記執筆時点で既

に故人)。しりうごちいふ…陰口を言う。思ひくまなき…思いやりが無い。口ひひらかし…声高に経を唱えて。

物もどきうち…他人の非難。恥づと見れど…私が恥ずかしかっているのだと他人は誤解するが。ほけしれたる…呆^{ほう}けて愚かになった。おいらけもの…おいらかな者・おっとりとした者。宮の御前…中宮彰子。

問一 傍線部「つれづれせめてあまりぬるとき、一つ二つひきいでて見侍るを」の意味として、もつとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a 余りに手持ちぶさたなときに、私が一、二点取り出して見ていると
- b 用事があまり立て込んでいないときに、女房達が一、二点取り出して見ていると
- c 女房達の手に余る程に用事が立て込んでいるときに、私が一、二点取り出して見ていると
- d ゆっくり休めないほど忙しいときにも拘らず、女房達が一、二点取り出して見ていると

問二 傍線部2「おまへはかくおはすれば、御幸ひはすくなきなり」は、誰が誰に言ったのか、又「おまへ」は誰を指すか、組み合わせとして、もっとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a 紫式部が女房へ・「おまへ」は女房を指す。
- b 女房が紫式部へ・「おまへ」は紫式部を指す。
- c 女房が同僚の女房へ・「おまへ」は紫式部を指す。
- d 女房が同僚の女房へ・「おまへ」は同僚の女房を指す。

問三 傍線部3「なでふ女か真字書は読む」の意味として、もっとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a 漢字で書かれた本が読める女など、そういない。
- b 女は、漢字で書かれた本など読むものではない。
- c どの女房が、漢字で書かれた本を読んだのか。
- d なぜ、女が漢字で書かれた本など読まねばならないのか。

問四 傍線部4「行く末いのち長かめるよしども見えぬためしなり」の意味として、もっとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a その後の長寿を保つらしいが、希有な^{かう}ことである。
- b その後の長寿を保ったというが、希有な^{かう}ことである。
- c その後の長寿を保つような例は、見たことがない。
- d その後の長寿を保つような方法は、知られていない。

問五 傍線部5「ことはたさもあり」がここに挿入されていることには、どのような効果があるか。もつとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a 女房達の陰口に対し、「又、それに異なる例もある」と反例の存在を示唆し、次の文章での反論のきっかけとする。
- b 女房達の意見を受け入れて、「案外そちらの方が正しいかも」と主張を翻し、次の文章へと展開する足掛りとする。
- c 女房達の陰口を無下には否定せず、「確かにそうかも知れない」と穏やかに妥協することで、文章を一旦まとめる。
- d 女房達を思いやって黙ったことも、「そんなことはない」と反論したこともあると並記して、文章に区切りを付ける。

問六 傍線部6「いと心づきなく見ゆるわざなりと思ひ給へて」の意味として、もつとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a 実に不快に見えるものだと私は思っ居りますので
- b 実に不快に見えるものだと中宮様がお考えです
- c 違和感も全くなく見えるものだと中宮様がお考えです
- d 違和感も全くなく見えるものだと私は思っ居りますので

問七 傍線部7「わがつかふ人」は誰を指すか、もつとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a 紫式部の亡夫である藤原宣孝
- b 中宮彰子に仕える女房たち
- c 紫式部が仕える中宮彰子
- d 紫式部に仕える女房たち

問八 傍線部8「いはまほしきことも侍れど、いでやと思ほえ」の意味として、もつとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a 言つてほしいこともあるのに、なぜ言わないのだろうと思つて
- b 言いたいこともあるので、いつそ言つてしまおうかとも思つて
- c 言いたいこともあるが、まあ止めておこうという気がして
- d 言つてほしくないことなのに、なぜ言うのだろうと思つて

問九 傍線部9「われはと思へる人の前にては、うるさければ」の含んでいる意味として、もつとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a 「私などは」と卑下する人に無遠慮なことを言うと、傲慢だと思われて、色々と面倒なことになる。
- b 「我こそは」と思っている人にうっかりしたことを言うと、とがめられて、色々と面倒なことになる。
- c 私が最も大事に思っている人の前では、何かをお耳にいれることすら騒がしいのではと、はばか憚られる。
- d 「私などは」と卑下して消極的な人には、色々と申し付けることが多くなつて、かえつて騒がしくなる。

問十 傍線部10「いとしも物のかたがた得たる人は難し」の意味として、もつとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a あれもこれもと手を出した上で成功するのは、大変な難題である。
- b あれもこれもと手を出して獲得したがる人は、大きく成功しにくい。
- c ものごとの一面だけ大変よく理解している人というのは、扱いにくい。
- d ものごとの色々な方面が大変よく分っている人というのは、めつたにいない。

問十一 傍線部11「えさらず」の含んでいる意味として、もっとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a 実はそうした見掛けとは違い
- b 実はそれほど恥じているわけではなく
- c 立ち去ることができずに、そのまま
- d 避けることができずに、やむを得ず

問十二 傍線部12「見るには」は、誰が誰を見たのか、もっとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a 中宮彰子が、紫式部を
- b 紫式部が、中宮彰子を
- c 懇意ではなかった他人が、紫式部を
- d 紫式部が、懇意ではなかった他人を

問十三 傍線部13、14について、次の設問I、IIに答えよ。

I 傍線部14「いとうちとけては見えじとなむ思ひしかど」の意味として、もっとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a 深く心を許して付き合うことはないだろうと思っていたのだが
- b お高くとまっているように見えるだろうと思っていたのだが
- c 余り心を許しているようには見えないと思っていたのだが
- d 心を許しすぎてしまつて、もう逢いたくないと思っていたのだが

II 傍線部13「ただこれぞわが心と、ならひもてなし侍る有様」に対しての中宮彰子からの反応は、紫式部の側からは、どう見えたか、もつとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

- a 自分の心持ちを皆が賞賛してくれているのを、中宮も賛同して、心を許して下さっている。
- b 自分の気持ちを抑制した処を見せているのを、中宮はさすがに見抜いて、本心を察して下さっている。
- c 自分の気持ちを抑制した処を見せているのに、中宮も気付かずに、それが本当の心持ちだと思っておいでだ。
- d 自分の無理をしている心持ちを皆は賞賛してくれているが、中宮は本心を察して、心を許すように仰っている。

三

次の文章を読んで、後の問に答えよ。なお、設問の関係上、返り点・送り仮名を省いたところがある。

艾子^{がいし}有^レ孫¹、年十許、慵劣^{ようろう}不^レ学²。每^ニ加^フ榎^{フレドモ}楚^カ而不^レ悛^{あらたメ}。其子僅有^ニ是^{ルノミ}兒³。恒^ニ恐^レ兒之不^{シテ}勝^ヘ杖^ニ而死^{センコトヲ}也²、責^ニ必^シ涕泣¹以^テ請^フ。艾子怒^{リテ}曰^{ハク}、吾為^レ若^レ教^シ子^ヲ。不^レ善^ナ邪³。杖^{むちうツコト}之^ヲ愈^{いよいよ}峻^{きびシ}。

一旦^ニ雪^ワ作^ル、孫^{まる}搏^{メテ}雪^ヲ而^レ嬉^{たはむル}。

艾子見^レ之^ヲ、褌^{はギ}其^ノ衣^ヲ使^ム跪^{ひざまづ}雪中^ニ。寒戰之色可^シ掬^{きく}。其子不^レ復^タ敢^テ言^ハ、亦^タ脱^ギ其^ノ衣^ヲ、跪^ク其^ノ旁^ニ。艾子驚^キ問^{ヒテ}曰^{ハク}、汝^ノ兒^ノ有^レ罪^ニ、應^{ベシ}受^ク此^ノ罰^ヲ。汝^ノ何^ヲ与^フ焉⁴。其子泣^{キテ}曰^{ハク}、汝^ノ凍^レ吾^ノ兒^ヲ、吾亦凍^レ汝^ノ兒^ヲ。艾子笑^ヒ而^レ积^ル之^ヲ。

(陸灼『艾子後語』)

〔注〕○艾子…戦国時代の斉の宣王に仕えたと言われる、架空の人物。○慵劣…おろかで、ものぐさ。○榎楚…ヒノキといば

らのムチ。○杖…ムチうつ。○搏雪…雪をまるめる。○褌…衣服をはぎ取る。○可掬…見てとれる。

問一 傍線部1「年十許」の「許」と同じ字義・用法であるものとして、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 不知何許人
- b 松竹淡如許
- c 粒如粟米許
- d 将驚年許多

問二 傍線部2「責必涕泣以請」の意味として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 涙を流して、ぜひとも責任を取らせて欲しいとこいねがった。
- b はなはだしく涙を流し、それで許して欲しいと願った。
- c せめられて、いつも涙を流して罪をあやまった。
- d しかられると、いつも泣いて許してやって欲しいといった。

問三 傍線部3「不善邪」の意味として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 善である
- b 善ではない
- c 善とできようか
- d 善悪どちらであろうか

問四 傍線部4「汝何与焉」の意味として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a おまえは、なにをあたえようというのか。
- b おまえは、どうして首を突っこむのだ。
- c おまえは、どうして罰をあたえられたと思うのか。
- d おまえは、なんのために一緒にいるのか。

問五 傍線部5「艾子笑而积之」について、その理由について述べたものとして、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 艾子は孫のあわれな姿を見て肉親の情を強く抱き、何ともかわいそうになって許す気持ちになったから。
- b 艾子は息子が子供を思う気持ちに思わず心をうたれ、自然と息子も孫も許す気持ちになったから。
- c 艾子は息子が身をもって示した機転ある行為に思わず感心し、孫を許す気持ちになったから。
- d 艾子は息子と孫の無邪気さにあきれてしまい、しかたなく二人を許す気持ちになったから。

問六 文中の空欄には、「そのここれをいかんともするなし」と訓読する漢文が入る。その漢文として、もっとも適切なものを次の中から一つ選べ。

- a 其子無如之何
- b 其子無如何之
- c 其子之無如何
- d 其子無之如何

問七 波線部W「子」、X「汝」、Y「児」、Z「児」は、それぞれ誰を指すか。「艾子」の場合にはA、「其子」の場合にはB、「孫」の場合にはCをそれぞれマークせよ。

